

厚生労働省発表  
平成19年3月14日

## 「授乳・離乳の支援ガイド」の策定について

離乳食の開始・進行については、平成7年に出された「改定 離乳の基本」に基づき、保健・栄養指導の場面や育児雑誌等において幅広く情報提供が行われているが、すでに10年が経過し、先般公表した「平成17年度乳幼児栄養調査結果」等最新の知見を踏まえ、その内容について見直しを行う必要がある。

また、授乳については、従来取り組まれてきた母乳育児の推進を図る観点から、近年では出産直後の不安が高くその訴えも多様であること、離乳食の開始・進行との関わりが深いことなどを踏まえ、保健医療従事者において、望ましい支援のあり方に関する基本的事項の共有化が図られ、一貫した支援が提供されることが求められている。

このため、厚生労働省では、昨年10月より学識経験者等で構成される「授乳・離乳の支援ガイド策定に関する研究会」（座長：柳澤正義 日本子ども家庭総合研究所所長）を開催し、支援ガイド策定に向けて検討を行ってきた。

このたび、「授乳・離乳の支援ガイド」がとりまとめられたので、その内容を公表する。

## 授乳・離乳の支援ガイドについて(概要)

ー保健医療従事者が取り組む授乳・離乳の支援の推進に向けてー

### 1. 「授乳・離乳の支援ガイド」作成の基本的考え方について

#### (1) 「管理」「指導」から「支援」へ

授乳期及び離乳期は母子の健康にとって極めて重要な時期にあり、母子の愛着形成や子どもの心の発達が大きな課題になっている状況においては、授乳・離乳の支援にあたって、親子双方にとって、慣れない授乳、慣れない離乳食を体験していく過程をどう支援していくかという育児支援の視点を重視する。

#### (2) 基本的事項の共有化により「継続的で一貫した」支援へ

産科施設、小児科施設、保健所・市町村保健センターなどの保健医療機関に所属する多職種が適切な支援のあり方について共有化する基本的事項を提示することにより、妊娠中から退院後、さらに離乳食の開始以降に至るまで、継続的で一貫した支援の推進を図っていく。

### 2. 「授乳・離乳の支援ガイド」の内容について

#### (1) 授乳の支援について

- 保健医療従事者が授乳の支援に関する基本的考え方を理解し、支援を進めるための基本的事項を「授乳の支援を進める5つのポイント」として提示。  
この中で、母乳育児の支援を進めるポイントをあわせて提示。(資料1)
- 関係機関の連携により、妊娠中から退院後までの継続した支援や環境整備が推進されるよう、医療機関や地域における実践例を提示。(資料2)

#### (2) 離乳の支援について

- 新たな「離乳食の進め方の目安」の提示。(資料3)  
〈現行(離乳の基本)からの主な変更点〉
  - ・離乳の開始時期を従来の「生後5か月になった頃」から「生後5,6か月頃」に変更。
  - ・離乳開始前に果汁を与える必要性のないことを明記。
  - ・食べ方の目安(食事(生活)リズムの形成、多様な食品の味や家族と一緒に食卓を楽しむといった食べる楽しさの体験)、成長の目安を追加。
- 肥満予防や食物アレルギー、咀嚼機能の発達といった個別課題について、最近の知見を踏まえた解説を提示。

### 3. 「授乳・離乳の支援ガイド」の普及啓発について

- 本ガイドを地方公共団体(市町村等)や保健医療関係団体に送付し、各種健康診査や訪問、両親・母親学級、育児相談や離乳食教室等での活用を進める。  
なお、母子健康手帳については、該当部分の必要な見直しを今後検討する。
- 各種ホームページ(厚生労働省、健やか親子21、i子育てネット等)等を通じた情報提供を進める。

## 授乳の支援を進める5つのポイント

### ～産科施設や小児科施設、保健所・市町村保健センターなど地域のすべての保健医療従事者が、授乳を通して、育児支援を進めていくために～

授乳は、赤ちゃんの心とからだを育みます。温かいふれあいを通して、赤ちゃんの心は育ちます。授乳を通して、親は繰り返し赤ちゃんの要求に応えることで、赤ちゃんを観察して対応していく力を育み、赤ちゃんは欲求を満たす心地よさを味わうことで、心の安定が得られ、食欲を育んでいきます。

授乳の支援は、赤ちゃんを健やかに育てることを目的とした育児支援です。授乳を通して、安心して赤ちゃんに対応できるように、妊娠中から出産後まで継続した支援が必要です。

- ①妊娠中から、適切な授乳方法を選択でき、実践できるように、支援しましょう。
- ②母親の状態をしっかり受け止め、赤ちゃんの状態をよく観察して、支援しましょう。
- ③授乳のときには、できるだけ静かな環境で、しっかり抱いて、優しく声をかけるように、支援しましょう。
- ④授乳への理解と支援が深まるように、父親や家族、身近な人への情報提供を進めましょう。
- ⑤授乳で困ったときに気軽に相談できる場所づくりや、授乳期間中でも、外出しやすく、働きやすい環境づくりを進めましょう。

### 母乳育児の支援を進めるポイント

#### ～もう一度、母乳育児の意味を考え、支援を進めていくために～

無理せず自然に母乳育児を実践できるように、妊娠中から出産後の環境を整えることは、赤ちゃんを「育てる」ことに自信をもって進めていくことができる環境を整えることでもあります。

- ①すべての妊婦さんやその家族とよく話し合いながら、母乳で育てる意義とその方法を教えましょう。
- ②出産後はできるだけ早く、母子がふれあって母乳を飲めるように、支援しましょう。
- ③出産後は母親と赤ちゃんが終日、一緒にいられるように、支援しましょう。
- ④赤ちゃんが欲しがるとき、母親が飲ませたいときには、いつでも母乳を飲ませられるように支援しましょう。
- ⑤母乳育児を継続するために、母乳不足感や体重増加不良などへの専門的支援、困ったときに相談できる場所づくりや仲間づくりなど、社会全体で支援しましょう。

---

授乳支援の推進のための実践例

---

医療機関を中心とした実践例

〈妊娠中から退院後までの継続した支援の実践例〉

- ◆実践例1 妊娠中から退院後までのきめ細かな支援
- ◆実践例2 妊娠中から退院後までの具体的な支援－母乳育児確立への支援のステップ－

〈退院後の支援の実践例〉

- ◆実践例3 母乳外来や2週間健診を通した退院後のお母さんと赤ちゃんへの安心サポート
- ◆実践例4 お母さんを支える「母乳育児サークル」を通して退院後も支援

地域を中心とした実践例

〈母子保健活動での実践例〉

- ◆実践例5 保健センターを中心とした支援の推進－健やかな親子関係の確立支援を目指して－

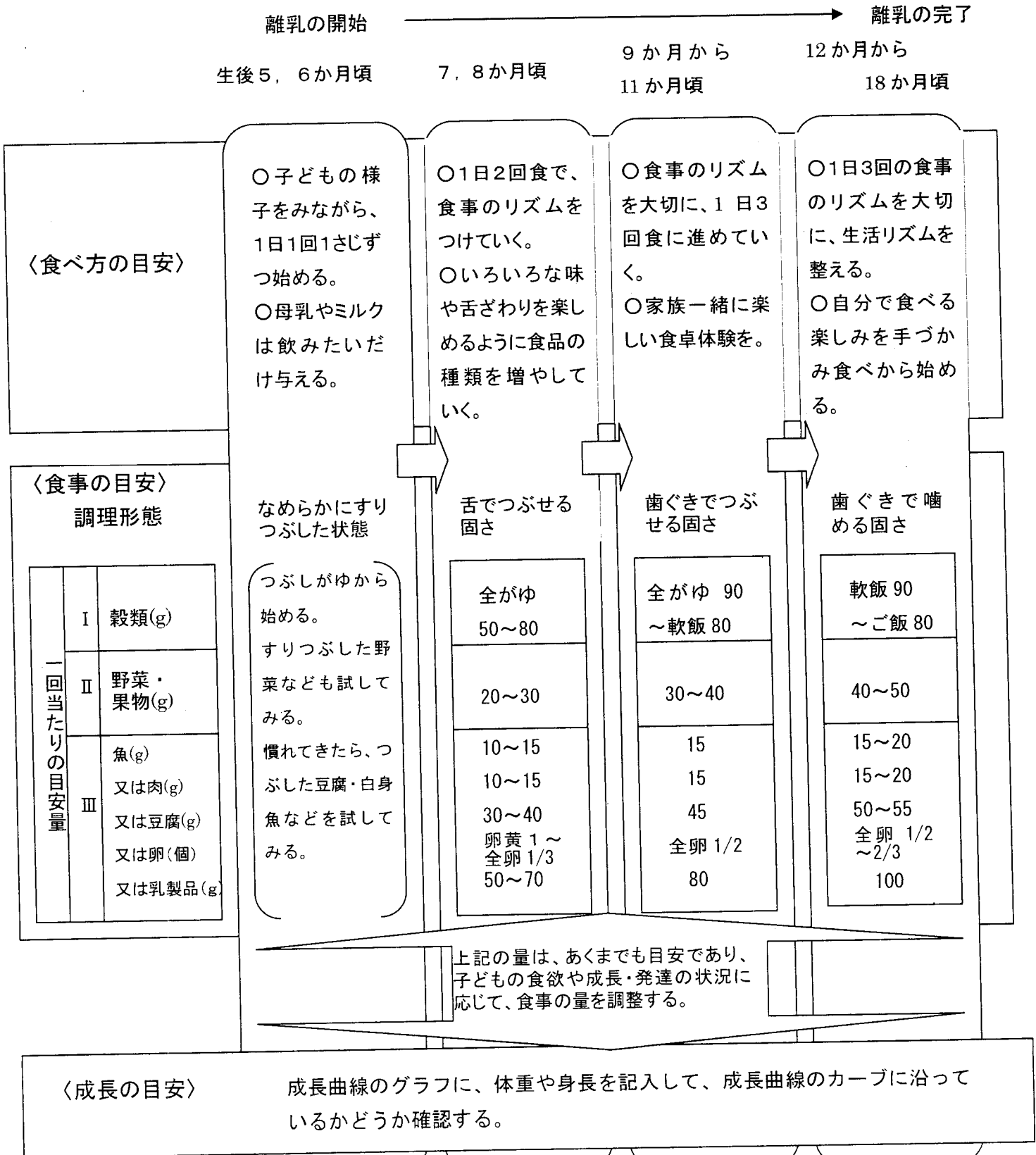
〈「安心」子育てに配慮した実践例〉

- ◆実践例6 退院後も安心して子育てができる、乳幼児がいても安心して外出ができる母子に優しい支援を目指したアプローチ
- ◆実践例7 働き始めたお母さんと保育所での生活が始まった子どもへの支援－保育所での実践例－

〈自治体全体での支援ネットワークによる実践例〉

- ◆実践例8 「おっぱい都市宣言」：子育て支援として、ふれあいを大切にする子育て（おっぱい育児）の推進
- ◆実践例9 母乳育児推進連絡協議会を中心としたネットワークで広がる支援

離乳食の進め方の目安



「授乳・離乳の支援ガイド策定に関する研究会」の開催経緯

| 日 程            | 研 究 会  |
|----------------|--|
| 平成18年10月11日(水) | 第1回研究会<br>・策定のねらいについて<br>・ガイドの骨子について(自由討議)   |
| 11月30日(木)      | 第2回研究会<br>・関係団体等からのヒアリング<br>・ガイドの骨子(案)に関する検討 |
| 12月20日(水)      | 第3回研究会<br>・ガイド(試案)に関する検討                     |
| 平成19年 1月31日(水) | 第4回研究会<br>・ガイド(案)に関する検討                      |
| 平成19年 3月14日(水) | 第5回研究会<br>・ガイド(案)に関する検討、<br>とりまとめ            |